

【令和6年度高校生によるまちづくり発表会 発表内容】

●12:50~14:20 ポスター発表



5校22組の生徒がポスターで発表し、生徒同士で意見交換。日頃接点のない生徒同士での交流ができました。また、「大学コンソーシアム八王子」が主催する「学生企画事業補助金 成果報告会」との合同開催により、11校13組の大学生・高専生も参加し、地域活動の成果を披露。高校生と大学生との貴重な交流機会にもなりました。さらに、参加校の探究学習に協力している企業・団体をはじめとした地域企業・団体の皆さんにもポスター発表を観覧・意見交換をしていただき、高校生が地域とのつながりを実感できる機会にもなりました。

テーマの種類	番号	学校名	発表者・グループ名	テーマ名
子ども・若者 環境づくり	1	翔陽高校	翔陽15班	自然災害への対策
	2	八王子北高校	個人参加	若者が悩みを抱え込まない八王子に
	3	八王子北高校	個人参加	八王子市内のポイ捨てを減らすには ～新たなりサイクルボックスの登場～
	4	八王子東高校	Aチーム	魅力ある八王子市へ 住み続けたいと思えるように
	5	八王子東高校	Fチーム	八王子市の若年者人口の割合を増加させるためには どうすればよいか??
	6	八王子東高校	Gチーム	八王子市の少子化を解決するための公園の在り方
	7	富士森高校	富士森P2班	自然と食のUNISON
	8	南多摩中等教育学校	個人参加	多摩ニュータウンに必要な震災対策とは
	9	南多摩中等教育学校	個人参加	八王子市内に創る、子供が集う公園の構想
	10	南多摩中等教育学校	個人参加	八王子市に今必要な「小中学生のサードプレイス」とは何か?
文化・教育 ・技術	11	八王子北高校	個人参加	養蚕の伝統を守っていくには
	12	八王子北高校	個人参加	(八王子市の教育の課題) 不登校の生徒をどのようにフォローするか
	13	富士森高校	富士森P1班	音楽から見る八王子
	14	南多摩中等教育学校	個人参加	八王子市における郷土教育の可能性

テーマの種類	番号	学校名	発表者・グループ名	テーマ名
交通	15	八王子北高校	個人参加	八王子の道路と歩道の幅が狭い
	16	八王子北高校	個人参加	八王子の交通網 西東京バスについて
	17	八王子東高校	Cチーム	リニアから始まる わかもん確保作戦！
	18	南多摩中等教育学校	3年B組3班	「快適な移動のための経路選択」
地域活性化	19	翔陽高校	はばたき	コミュニケーション大作戦！
	20	八王子東高校	Bチーム	地域コミュニティの活性化
	21	八王子東高校	Dチーム	八王子市西部集結計画
	22	八王子東高校	Eチーム	地域再生 八王子市の特産品を活かす

テーマの種類		大学名	団体名	事業名
子ども・若者 環境づくり	A	山野美容芸術短期大学	ヤマタンバルローズ	ビューティーダンスで地域貢献
	B	多摩大学	多摩大学 梅澤ホームゼミナール	世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト2024
	C	多摩美術大学	studio J A C A	間伐材再利用プロジェクト
	D	東京家政学院大学	三澤ゼミナール食育研究会	地域住民の食環境改善のための中食を利用した取り組み
	E	帝京大学	観光経営学特殊講義（桑都観光）	日本遺産『桑都』と『織物』を活かす、持続可能なまちづくり ～親子・学生との連携により『桑都』八王子への関心を一層深める試みの展開～
文化・教育 ・技術	F	サレジオ工業高等専門学校	学科プロジェクト	ロボット製作教室2024 inサレジオ
	G	東京薬科大学	Light Bulb	薬学教育事業
	H	東京造形大学	東京造形大学MD	デジタルメディアとリアルイベントが交錯する八王子聖地巡礼ゲーム
	I	法政大学	共創デザイン研究室	立候補者と有権者の政策対話を促進する選挙ゲームの開発
地域活性化	J	創価大学	創価大学理工学部丸田ゼミ	八王子産酒米米粉を利用した地域密着型オリジナル製品の商品化
	K	中央大学	伊藤伸介ゼミ	八王子名産「川口エンドウ」による地域活性化
	L	山野美容芸術短期大学	ヤマタンバルローズ	ローズガーデンエンジョイプロジェクト ～バラ園×八王子市の文化資源を融合させた地域活性化プロジェクト～
	M	サレジオ工業高等専門学校	ビジュアルコミュニケーション研究室	Made in Hachioji みやげ

● 15:00～17:10 口頭発表（市長・教育長へ発表）

■ 翔陽高等学校



(1) 発表者名：グループ参加

発表タイトル：「虐待ゼロへ！八王子から繋ぐ希望の輪」

- ・ 2010年代と比べて、現在の虐待件数は増加している。
- ・ 社会全体の虐待に対する意識が高まり、通報されていなかった虐待が認知されたり、核家族化などを背景として親が一人で悩みを抱え込んでしまうことが、虐待件数の増加要因であると考えた。
- ・ 既存施設の活用や保育士を目指す学生の活用によって、一時保育の費用を軽減する利用料の改定を提案。
- ・ 親が悩みを抱えないように、子育ての相談相手として、保育園などに地域子ども家庭支援センターの職員が定期的に訪れること、イベントやワークショップの開催による子ども家庭支援センターのさらなる認知の向上を提案した。

(2) 発表者名：グループ参加

発表タイトル：「自転車事故を減らすために

～八王子市の高校生の自転車事故を減らすためには～

- ・ 高校生は、通学や遊びに行くときなどに自転車をよく利用する。
- ・ 自転車は便利な移動手段であるが、利用にあたっては危険もあるため、安全に利用してもらいたい。
- ・ 自転車事故件数は令和2年度以降、増加している。また、市内の年代別の自転車事故件数を見ると、高校生世代が最も多く、高校生が自ら考え、解決していく必要があると考えた。
- ・ 高校では、警察署が開催する交通安全教室を受講する機会があるが、他人事として捉えてしまうこともあるため、体験型や参加型にしたほうがよいのではないかと。
- ・ 高校生が通学している高校周辺の危険な場所について話し合い、それをまとめた「安全ハチロード」という地図を作成することを提案した。

■八王子北高等学校



(3) 発表者名：個人参加

発表タイトル：「八王子市の観光客を増やすには」

- ・八王子市の観光は、高尾山以外のスポットが注目されていなかったり、少ないと考えた。
- ・フィールドワークを行った結果、隣接する市町村に移動がしやすいと、様々な観光地に訪問できることに気が付いた。
- ・近隣市町村の自然的な観光資源を巡るバスツアーなど、周辺の市町村と協力した観光ツアーを企画することを提案。
- ・他市で行われているアニメや漫画の「聖地ビジネス」の事例を紹介し、作品とのタイアップに加え、作者の出身地に着目し、八王子出身の漫画家とのタイアップができないか。
- ・紹介した作品などとコラボし、若い世代の観光客を増加させることを提案した。

(4) 発表者名：個人参加

発表タイトル：「カラスにごみを荒らされてしまう

～八王子市をより綺麗な市にするために～

- ・カラスにごみを荒らされてしまうと、環境への悪影響や景観が損なわれることがある。
- ・カラスは視覚が発達しているため、カラスに生ごみを見つけられないようにする対策が必要と考えた。
- ・フィールドワークを行い、カラスに荒らされていないごみ捨て場では、ごみにかごやネットを被せたり、生ごみを紙でくるむなどの対策を取ることで、カラスがごみを視認できないようにしていたことがわかった。
- ・カラスがごみを視認できないようにするだけでは、食料源を求めて、ほかの地域に移動するだけで根本的な解決に至らないため、カラスの生息数を減らす取り組みも並行して行うことが重要と考える。
- ・東京都の捕獲活動を紹介し、カラスの生息数の減少はカラスの苦情・相談件数の減少につながることをわかった。
- ・市民の取組だけでカラスの生息数を減らすことは難しいが、きれいな八王子にするために、家庭がごみの出し方を工夫する、生ごみの排出を減らす、自治体の取組を1人1人が深く知ることを提案した。

■八王子東高等学校



(5) 発表者名：E チーム

発表タイトル：「八王子市の特産品を活かした地域再生」

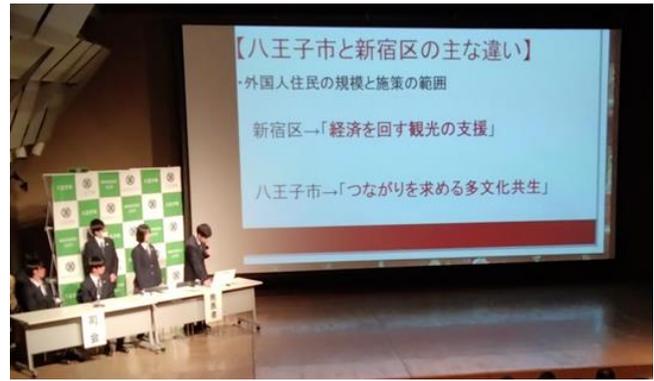
- ・「八王子市の農産物といえば」と聞かれた際に答えることが難しいと感じた。
- ・「江戸東京野菜」の1つで、筋や辛みが少なく子どもでも食べやすい「八王子生姜」に注目した。
- ・「八王子生姜」を八王子の特産品として認知されるために2つのプランを提案。
- ・1つ目は、近隣の市町村の給食に「八王子生姜」を出してもらうこと、2つ目は、地域農家と協力して親子連れをターゲットとしたイベントの開催。
- ・さらに市外の方向けには、市内の方が「八王子生姜」をギフトとして利用してもらうことも検討。
- ・「八王子生姜」の認知度の向上が、八王子市の農家の広報や八王子市全体のPRにつながると考えた。

(6) 発表者名：D チーム

発表タイトル：「八王子市西部集結計画」

- ・恩方地区の住民構成は高齢者層が多いが、市全体の転入者は若年者層が多いことから、高齢者層と若年者層のコミュニティが分かれている可能性を考えた。
- ・縁日的要素と自然的要素を掛け合わせた祭りの開催で、世代間の交流イベントを提案。
- ・この祭りは、若年者層に地域の課題を実感してもらうためにも、若年者層が主体となって、地域の高齢者や小中学生をゲストとして招くもの。
- ・夕やけ小やけふれあいの里で、キャンプファイヤーと縁日とを組み合わせたイベントを提案。
- ・キャンプファイヤーでは、参加者で火を囲み、「太陽踊り」や「ぼくらの八王子」などの全世代が参加できる八王子のテーマソングを歌い、踊ることで、協力や信頼関係が生まれるのではないかと考えた。

■ 富士森高等学校



(7) 発表者名：高橋班

発表タイトル：「高尾山の更なる発展へ」

- ・「八王子といえば高尾山」と考え、高尾山をもっと盛り上げ、八王子が盛り上がってほしい。
- ・しかし、普段自分たちの世代では高尾山に関する話題が出ないほか、イベント等の情報に触れる機会がない。
- ・八王子観光コンベンション協会が作成した高尾山のイベントに関するポスターと、発表者が記載内容を変えずにデザインのみ変更し、作成したポスターのどちらが魅力的なポスターか、アンケートを取った。その結果、ポスターのデザイン性では訴求力に大きな差がないことがわかった。
- ・続けて、八王子観光コンベンション協会の作成したポスターに記載されたイベント内容と、発表者が考案したイベント内容のどちらが魅力的であるかアンケートをとった。発表者が考えたイベント内容の「フォトスポット」や「インスタグラムのフォローでリフト無料」のほか、高校生限定の特典などに興味をもった様子が見られた。
- ・また、宣伝媒体の見やすさについてアンケートを取ると、ポスター、公式サイトよりも SNS に多くの票が集まった。
- ・周知にあたって若者を呼び込むには、「映え」のあるイベント内容や参加した際の特典が重要であり、周知方法については、SNS の活用が必要と考える。

(8) 発表者名：佐々木班

発表タイトル：「八王子市と外国人住民のつながり」

- ・八王子市と東京都の中心である新宿区それぞれの外国人への支援を比較し、それぞれの特徴を調べた。
- ・各自治体の施策の特徴として、新宿区は「経済を回す観光の支援」であり、八王子市は「つながりを求める多文化共生」であると気づいた。
- ・八王子市の今後すべきこととして外国人が魅力的に感じる都市にするための再開発を提案。
- ・自然が多く、生活に重点を置いている八王子市らしさを活かした再開発や、観光力をさらに高められる再開発の案を、他の地域の事例を挙げながら紹介。
- ・私たちが再開発を行うことは難しいため、高校生世代でもできることとして「やさしい日本語」の活用があると考えた。

■南多摩中等教育学校



(9) 発表者名：infiniT

発表タイトル：「高尾山における外国人に向けての「学生ガイド」の提案」

- ・発表者を含む高校生が中心となり、令和6年（2024年）11月に高尾山にて実施した、外国人向けのガイドボランティア活動について紹介。
- ・積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、臨機応変な対応力が身につくとともに、対話のスキルが上がるなどの成果があった。
- ・課題としては、プロモーション活動と疑われたり、ガイドの時間が長くなり飽きられたりしてしまうことがあった。
- ・目安の説明時間や学生が無料で行っていることを手持ちのボードで示すと、時間や料金面の安心感を持ってもらえることや、ムササビの食痕のある葉っぱなどの実物を見せた方が興味を持ってもらえることに気づいた。
- ・ガイド活動をする中で、外国人の多くが高尾山の持つ歴史や自然の魅力に気付かず帰っているのではと考えた。
- ・今回実施した反省や経験を反映しながら、高尾山薬王院参拝にあたってのマナーや歴史をガイドする「参拝学生ガイド」と、植物など実物を用意しやすく楽しみやすい「高尾山の動植物学生ガイド」を提案した。

(10) 発表者名：Glocal Issues 研究会

発表タイトル：「安心を届ける育児サポート配達」

- ・内閣府や八王子市の調査より、子育ての悩みとして経済的負担が最も多く、年間の子育て費用として生活用品費が最も高い。
- ・育児用品の中には使用期間が短く高額な物やサイズアウトなどで使わなくなった物品の処分が大変なものがあるという声を聞く。
- ・紙おむつなどの消耗品の無料支給とベビーベッドなどの高額なベビー用品のレンタルを掛け合わせた育児支援アプリを提案。
- ・アプリ内でいつでも育児相談ができるような相談機能の追加も検討。
- ・アプリの導入により、若い世代の定住を促進できると考えた。